

様式第3号

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成27年度 川西市社会教育委員の会 第3回全体会	
事 務 局 (担 当 課)		教育推進部 社会教育・文化財課 (内線 3421)	
開 催 日 時		平成28年2月24日(水) 10時00分~12時00分	
開 催 場 所		市庁舎 202会議室	
出 席 者	委 員	生田議長、安藤副議長、岡田委員、田中委員、廣末委員、米田委員、 真鍋委員、岸本委員、西谷委員 計9名	
	そ の 他		
	事 務 局	牛尾教育長、中塚こども未来部長、石田教育推進部長、 中西総務調整室長、山元こども家庭室長、若生学校教育室長、枅川ま なび支援室長、田淵中央図書館長、沼人権推進室長、瀧花中央公民館 長、井上社会教育・文化財課長、坂上(社会教育・文化財課臨時職員) 計12名	
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数 0名
傍聴不可・一部 不可の場合は、 その理由			
会 議 次 第		1. 開会 2. 教育長あいさつ、前回会議録の承認 3. 報告事項 (1)阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会の報告について (2)各協議会の会議報告について (3)その他 4. 議題 (1)平成27年度年間研究テーマ「地域、学校、家庭をつなぐ社会教育のあり方」について 5. その他 平成28年度社会教育関係団体に対する補助金について	
会議結果		別紙のとおり	

審 議 経 過

NO. 1

議長	<p>只今から 27 年度の社会教育委員の会第 3 回全体会を開催いたします。本日の出欠ですが、末澤委員が欠席で、他の委員のみなさんにはすべて出席です。今日は、2 年任期の最後の社会教育委員の会です。それでは、開会にあたりまして、教育長の方からご挨拶をお願いします。あわせて「川西の教育」についての説明もあります。よろしくお願いします。</p> <p style="text-align: center;">（教育長、挨拶及びパワーポイントで「川西の教育」の説明）</p>
議長	<p>それでは、続いて、こども未来部並びに教育推進部の両部長からご挨拶よろしくお願いします。</p> <p style="text-align: center;">（教育推進部長、こども未来部長、挨拶）</p>
議長	<p>次に 2 の「前回会議録の承認」についてです。事務局、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>「前回会議録の承認」に係る事務局説明</p>
議長	<p>質問がないようですので、前回の会議録は承認いただいたものとします。次に、3 の報告事項に入ります。まず阪神北地区社会教育委員協議会第 2 回研修会について、猪名川町日生公民館で 2 月 19 日にありましたが、資料 1 にありますように、「文化を活かした地域学習と地域振興」という事で園田学園女子大学名誉教授の田辺真人さんに講演を頂きました。阪神間各市町の特徴を具体的な形でお話して頂きました。各市のまちづくりについて、田辺先生の視点ですがもっと PR する部分がないだろうかという非常に中身がある話でした。</p>
E 委員	<p>まちの由来を教えて頂いて、今まで聞いた事がなかったようなところから名前が来ているのだという話を改めて興味を持って聞かせて頂いた。今度は川西についてはどうかということ考えると、何を特徴として情報発信していけるのか。自然に関しては里山も含めて素晴らしいものがあり、文化的なものという、「きんたくん」つまり金太郎のことが思い出され、それと源満仲の多田神社のことや郷土館などいくつかは思い出せるのですが、そういうことを大いに発信し、川西はそういう所だということを川西市民が気付くとともに、またキセラ川西ができる事をきっかけとして、市外の人も含め、周りの多くの人たちが興味、関心を持ち、そして、何回も足を運んで頂ける様なまちづくりをしていかないといけないということです。勇気の湧く様なよい講演を聴かせて頂いたと思います。</p>
C 委員	<p>市の良い所を全国に広めて、もっと皆さんに全国から知ってもらう様な宣伝や市の名前を高める様な方法を考えなくてはいけないということを感じました。</p>
F 委員	<p>お話を聞いている中で、川西は自分たちのまちであるのだからもっと皆に分かって頂き、PR できたらいいなと思いました。</p>
B 委員	<p>田辺先生が川西市の関係者の方たちと会合された時に、川西は何で押したらいいかとい</p>

審 議 経 過

NO. 2

	<p>う事を聞かれ「金太郎」ということを伝えられたそうです。</p>
議長	<p>他に連絡、報告事項等はありませんか。</p>
事務局	<p>田辺真人先生ですが、生涯学習短期大学の学長に、この3月1日からご就任いただくことになっておりますのでご報告させていただきます。</p>
B委員	<p>川西市生涯短期大学レフネックの件ですが、修了式が2月20日にありました。いきもの・環境学科61名、文化・情報学科57名、全部で118名の皆さんが卒業されて、そのうち22名が皆勤されていまして、やはり、皆さんにとって素敵な学科だったのだなということがわかりました。</p>
議長	<p>川西オンブズパーソンの報告会が3月19日にあります。社会教育委員の方には毎年ご出席いただいておりますが、今回もアステホールの方で開催しますのでご案内を申し上げます。それと、お手元の県研究大会の記録集にB委員の分科会での報告内容と当日の様子が書かれていますので、ぜひ、記録集を読んで頂きたいと思います。</p>
F委員	<p>青少年センター運営委員会の報告ですが、2月9日午前10時から青少年センター研修室でありました。協議事項は、27年度の青少年センター事業の総括と、28年度の青少年センターの事業方針で、今後も学校、家庭、地域の関係団体との連携を深めながら、子ども達が健やかに成長していく環境を整備していかないといけないということでした。学校安全協力委員さんも、年齢が高くなり、減少している中で、どのようにしていったらいいのかということなど話に出ていました。ひとつ、私がよかったと思ったことは、青少年センターが来年度からまなび支援室地域こども支援課から学校教育室生徒指導支援課に所管が変更されるということです。青少年の健全育成のためには学校と連絡を密にし、連携を取っていかなくてはなりませんので、学校教育室の方に入っている方が良いのではないかと、ことをずっと思っていましたのでよかったと思います。</p>
議長	<p>それでは、議題に入ります。27年度につきましては、全体会3回と分科会3回の計6回の形でやろうと考えておりましたが、わずかに10名の委員で2つに分かれてやるのは、委員の欠席等で会が成り立たないようなこともあるのではないかと、分科会については、テーマ別検討会ということで、全員で「社会教育施設の今後について」と「地域、学校、家庭の連携について」という2つのテーマの検討を行いました。</p> <p>討議報告原案という形で、本日資料配布をしていますが、今日の会を受けて後日、議長、副議長の方で教育委員会へ提出したいと思っております。</p> <p style="text-align: center;">(以下、議長から討議報告原案の説明)</p> <p>(社会教育施設の今後について)</p> <p>中央公民館がキセラ川西に建設予定の複合施設に移転するという話を受けた中で、主に公民館について意見交換を行いました。今まで公民館については、絞った形でほとんど論議を行っていませんでした。中央公民館については、今後、一地区公民館の面積規模に</p>

なり、床面積は1/5に縮小されるということで、想定される問題については事務局の方も困っている部分があるということでした。そのようなことを踏まえて意見交換を行ない、結論には至りませんでした。現在、中央公民館を利用されている方の今後の活動場所の確保については、どのようになるのか、またこの移転の問題については、積極的な情報発信を行政の方でやって頂きたいというような意見や要望も、それに対し、担当の方からは、登録グループに対する説明会なども行なっているとの説明がありました。

次に公民館の位置づけを考えていった時に、社会教育主事という専門的な職員を公民館に配置し、地域コーディネーター的役割を担えるようにすることが、社会教育の分野では必要ではないかというような意見を出しています。特に、川西市の公民館は行政センターを兼ねていますので、人員配置に難しい所がありますが、生涯学習の部分の中で考えていくことも大切ではないかという事をお話させて頂きました。それと、中央公民館は、市内の中核の公民館だという認識が、まだ我々にはあるのですが、実際は、一地区公民館です。また、キセラ川西の複合施設に入った時、中央公民館で登録されている多くのグループの今後については、どうなるのか、その危惧について意見させて頂きました。

次に公民館は、主に青少年や成人に対して、組織的な教育活動を行っていく社会教育施設であるという位置づけの部分になります。それは、社会教育法ではっきりと謳われている部分で、公民館の位置づけを考えていった時に、地域との連携、コミュニティーやまちづくりの拠点にならざるを得ない部分というのがあるということ、社会教育委員として、認識しながら考えていかなければいけないということ、話し合いました。ただ、川西の公民館は、数も多く、職員もきちんと配置されていますので、阪神間や兵庫県下を見ましても、非常に恵まれています。B委員に県の研究大会で公民館講座からスタートし地域全体のまちづくりにつながったという発表をして頂き、他市町の方からも非常にいい評価を得たところです。

また、平成22年まで公民館運営審議会があり、社会教育委員が公民館運営審議会委員を兼任する形で、当時、公民館運営について年3回、論議をしたり、諮問を受けて答申を出したりしていました。現在は廃止され、公民館については社会教育委員の会で話し合わないといけないのですが、公民館に係る審議会というのはいまだ必要ではないかという意見もありました。

公民館講座については、公民館職員だけで企画するのではなく、地域住民を巻き込んだ企画を取り入れる必要があるのではないかとことです。地域自治会のメンバーなどを含めた形の企画委員会を作り公民館講座を企画していくというのも一つの方法ではないかなと思います。

(学校・地域・家庭の連携について)

こちらのテーマは、論議する時間があまりありませんでした。課題として、学校支援地域本部など学校を支援する体制はあるのですが、活用の面で、なかなか学校現場と連携が取れていないということが話に上がりました。

26年度に川西市の生涯学習推進の方向ということで、1年間をかけて論議を行いました。その中で1項目目が「ふるさと川西の学習と新しい文化創造」、2つ目の項目で「社会や個々のニーズに応じた生涯学習の創造」、3つ目に「生涯学習社会の創造を支援する仕組みづくり」ということで方向性を示されました。ややもすれば、計画を立てて仕事は終わりとなりがちですが、それをいかに実践していくかということ、我々としては考えていかなければならないということ、をまとめさせて頂きました。

審 議 経 過

NO. 4

	<p>最後になりましたが、川西に住んで良かったというまちになるよう皆で力を合わせて川西の教育を推進される事を期待するということでまとめさせていただきました。</p> <p>それでは、この討議報告原案に対する修正やご意見を伺いたいと思います。</p>
D委員	<p>私は、学校支援地域本部のコーディネーターもさせて頂いていますし、子育て支援の相談員も夏からさせて頂いているのですが、やはり現場となかなか繋がっていくのが難しいと感じました。</p>
F委員	<p>公民館について、複合施設ができるわけですが、話がここまで来る前に、自分たちがもう少し話に加わることができれば良かったのではないかと思ったのが一番の感想です。それと、社会がどんどん変わっていくと、自分たちの身の回りも変わっていき、学校もやはり変わってきている気がします。地域ももちろんのこと、年齢が上ってきていますし、また、地域差がすごくあります。幸いにして私が住んでいる北部では、まだまだ子ども達もたくさんいて、若いお母さん、お父さんたちも多く、事業をするにあたっては、積極的に色々な世代の方が出てきて下さっている。しかしながら、地域で一番活躍してほしい30代、40代の人がない。そういう事も含めて、地域全体で考えていくことが、これから先大事ではないかなということです。微力でも何か川西の為にお手伝いできる事があればと思いながら委員をしました。</p>
議長	<p>保育士さんとしての視点からはいかがですか。</p>
F委員	<p>幼保一体化が進み、近所の幼稚園も認定こども園になり、いろいろな面でたいへんになってきていると聞きます。1つにまとめて良い部分とそうでない部分があるので難しいと思いますが、これから先、牧の台小校区に認定こども園が、現在ある幼稚園のところに建設されていくのですが、その間、幼稚園の子ども達は小学校にしばらく間借りをする様な形になるわけで、そうすると、またその辺の整備も大変だろうと思います。保護者の方も随分変わってきました。また、ここ何年間のうちに発達障害のお子さんも増えてきています。保護者の方も自分の子どもをうまく育てられないという難しい面もでてきており、そのような現状の中で、今の保育は細かい部分に気を付けてあげないといけないという本当に大変難しい時代になっています。</p>
議長	<p>家庭教育の視点というものも、我々の分野であり考えていかなければならない課題です。</p>
H委員	<p>小学校という所は本当に地域の行事がたくさんあり、2学期などは毎週なにかの行事が行われ、多くの地域の方に来て頂きます。その中で、子どもの活動できる場面を色々工夫してさせて頂いているというのはすごくありがたいと思います。今年度も新しい事業として、学校の中で三世代交流をということで地域の方に入って頂き、子ども達と地域の方が交流し、触れ合う機会を設けてくださいました。それも子どもが楽しく活動ができるよう、子ども中心に考えてくださいました。学校評価という事では、保護者の方から色々な項目について評価をうかがうことがあります。それに併せて学校評議員制度というものがあり、学校に評議員さんを招き、学校の事について色々評価をして頂きます。概ね</p>

	<p>良好という評価は頂いているのですが、もっと地域を活用する場面が色々あるのではないかとことを言われています。学習の場面でも、もっと厚かましく依頼を発信して協力を求めているけば、学校の中に入れる人はたくさんいますよというような意見を聞かせて頂きました。見ていますと地域の一部の方が、何回も何役もやっておられて、これ以上頼むのは申し訳ないという感じがしていたのですが、そうではなく、頼めば他の方でも活動できることがあつたりしますよということも聞かせて頂き、遠慮するばかりではなく、頼むことで、かえって地域の方の活動の場が増え、子どもと関わることで、生きがいというか、そういうものを感じていただく場面があるのかなと思いました。なかなか新しい発想というのが、学校はできなくて、現状としては色々入って来るものを、いかにこなすかという所があります。今後は、いかに発想を転換して地域と共に活動していく場を増やしていくことができるかということです。</p>
<p>I 委員</p>	<p>今の日本の現状から言うと、教育というのが学校だけで完結し、その後の社会教育や生涯学習になかなか繋がっていかない様に感じています。中学3年生は、面接の練習をするのですが、生徒の答えで生徒の意志はこんなものかと思う事がひとつだけあります。「君は義務教育を終えたら働いてもかまわないが、なぜ進学するのですか。なぜ学ぶのですか。」その答えの中に毎年出てくるのが、「将来お金もうけをしたい。」「お金を得るために学びます。」という答えです。そういう子ども達の考えの中にあつては、自分が知りたいものや、学びたいものを学ぶために今、学んでいるのだということになかなか感じない。つまり学校を卒業したら学ぶのは終わりというようなイメージを学校教育は子どもの中に植え付けてしまっているのかなという感じがしています。社会教育や生涯学習というのは本当に一生涯学び続けるということです。そういう部分の基礎基本を学ぶのが学校教育だと思つので、学校教育の充実を図り、学び続けていくという意識を子ども達に植え付けていかないといけなると常々思っています。中学校としては、学校支援地域本部も小学校以上に活用をしていけなると思っています。そのためにも、需要と供給のマッチング、学校の要求するニーズと、あるいは提供して頂く方がこんなことができますよという情報の共有をもっと持っていけば、より活用していくことができるかと思つます。そこで、地域の方が学校教育にも携わるといふ部分ができれば、社会教育にも貢献できるかなというふうに思つます。</p>
<p>G 委員</p>	<p>地域力の低下は、自治会の役員をしているので、本当に感じています。その中で、それでは、どのようにしていこうかというところで話し合いになるのですが、40歳以上の大人は考え方が柔軟でなく、動かすのは難しい。それでは、未就園児のお子さんのお母さんの顔をつなげていこうということで、今年度は流しそうめんや餅つき、芋煮会ということをしました。するとお子さんをつれてお母さんが何人か来られて、そこで子育ての話などでお母さん同士の顔を繋がっていく。そこに、長寿クラブにも声掛けをして来て頂く。そうすると、子どもってこんな大きな声で泣いていたなという所で、子どもが泣いてもうるさいという言葉が出ないようになる。そういう顔つなぎをしていくことで私たちの地域の方では、少しずつできることをという事で進めました。2つほど質問があります。この間、教育委員会が一般の新聞折り込みチラシに求人広告を出しておられたのを見たのですが、それで、いい人材が集まるのかなと思うのですが、それほど大変なのでしょうか。また、先ほど、発達障害の話が出ていましたが、お子さん対象のデイサービスが川西の中ですご</p>

<p>事務局</p>	<p>く増えていっています。民間で立ち上がっているのは、ほとんどは我が子が発達障害などで、子どものためにというお母さん方がほとんどでいらっしゃると思うのですが、その辺についての支援などはどのようになっているのか教えて頂ければと思います。</p> <p>求人につきましては、保育士をはじめ、幼稚園の先生の求人を新聞折り込みにさせて頂いた所なのですが、女性で就労される方が増えてきていますから保育所を中心として保育士の確保が本当に厳しいです。職業安定所にも登録していますが、なかなか応募していただけません。今回もこういう形で進めていきましたが、それでも十分に応募がない所です。今後も新聞の広告の折り込みもそうですが、職業安定所へのお願い、保護者の方への口コミ等、色々な手段を使っていきたいと思えます。ただ、求人にあたっては、当然資格をお持ち頂いているというのが、最低限の条件にはなっていますが、将来を担う子ども達の育成にあたっていただくわけですから、それに加えて窓口の方で面接等させて頂いて、一定の保育、教育の質を保っていくという様な事が実現できるようにさせて頂いている所です。</p>
<p>事務局</p>	<p>求人広告については、きんたくんまなびの道場の支援員ということで、便乗させて頂いています。それともうひとつのデイサービスの件についてですが、発達障害のお子さん、それから障がいをお持ちのお子さんに関しては、学童保育という放課後の過ごし方の選択肢もありますが、市内のデイサービスの方も預かりできる様になり、選択肢が増えて来ているという状況で、そちらを利用している子どもたちも多いという現状になっています。</p>
<p>E委員</p>	<p>この2年間振り返ると、生涯学習のことが中心になったこともありますし、また、図書館や中央公民館などの施設の関係でどうしたらいいのかという様な事も話題になりましたが、一番気になるのは、連携のことなのです。それぞれが一生懸命やっておられるというのはよく承知していますが、学校と家庭と地域の中のそういう施設も含めて、どのようにネットワークを築くのかというところに非常に弱さがある。昔はもっと人と人のつながりが密だったといえますが、そこから思い返せば、どんどん薄くなっていくのはなぜなのかというそこに思い至るわけなのです。討議報告の中で気になる所をいいますと、7頁の学校教育と地域、家庭との連携状況はという一説なのですが、これは文章的に少しつながりがおかしいです。この状況はできているわけですから、どういうふうなことが状況だという形になっていたらいいのですが、今、H委員とI委員が言われましたように、ここの状況は、学校は具体的な教育目標並びに現状をしっかりと発信しきれてはいないとかという辺を、1つこう文章を切って、その後につなぐといいいのではということなのです。まず、学校が動かなくてはならない部分というのが大きいというのはこの1年を通じて、何回も言わせて頂いた。つまり発信をすることによって地域が学校でここを手伝いましょうということになる。それから学校が直接言う場合もあるし、地域支援の方をお願いする場合もあるという所へつながりが出てきます。HPがそういう役割の1つになっているのかもしれないですが、今、川西市の広報のHPから各学校のHPには入れません。かつては、川西市のHPから各学校のHP入っていったと思うのですが、そこをどうしてこんなふうに変えられたのかと思えます。久しぶりに、私がいた小学校を見ても、地域とのつながりの場面の写真を中心に、ものすごく丁寧に挙げて頂き、自分がいた頃にやり始めた取組みを写真でよく紹介されていました。それぞれの学校もそういうことができればいいと思</p>

<p>C委員</p>	<p>います。私の場合は、学習指導面での力添いを頂くために、全国学力調査の結果を分析して、弱いところを発信して、大学生をはじめたくさんの方に手伝いに来て貰いました。このように、まずは学校がニーズを発信する。つまり協力依頼です。I委員が、そんな事をいわれても学校は他にもいっぱいすることがあってかかっていられないとおっしゃっていましたが、これも正直な所ですので、当然、そこには調整が入るわけです。協力依頼があり、次の段階で学校との調整。何が手伝いで入れるのかの調整の段階があって、そして具体的な支援の場面に入る。その循環です。協力依頼、調整、支援、この循環がうまく回る様に、市の中でもシステムを組んでいただけたら、もっと連携ができるのではないかと思います。私の場合、家庭教育の大切さという事も、とても考える立場になっており、要保護児童とって、虐待を受けている様な子ども達に関わっているようなところで、情報を頂いている訳です。今、マスコミを販わせているかつてのプロ野球のスター選手が、覚せい剤で逮捕されて身元引受人さえ出てこないのではないかとされているくらいに、名声が地に落ちて孤立をしている姿を見ると、人間は頂点にのぼりつめても、孤立し孤独になった時には本当に弱い存在であるなというふうに思う訳です。彼の場合は少年野球からですから、親御さんも一生懸命に愛情を注いで、彼を育てられたと思うのですが、そこも消えてしまっている。やはり子どもがどうして育つのかと考えると、最初の段階で親が愛情をかけることがものすごく大事だと思います。要保護児童の所で出てくるケースを見ますと、子どもを産むだけ産んで、全く子育てに関わらない保護者がいる。世間では、それなら施設に入れたらという判断になる訳です。このように最初の段階に親が関わっていないということが、色々な社会問題につながったり、学校へ行った時に様々な形で噴出して来る。子どもは社会が育てるものだという考えの背景としては、最初に親が十分愛情をかけスタートしてからの話であり、まずは親がしっかり育てることが必要だと考えます。親が子育てのことで悩むことは、親にとっては苦しいことですが、それが幸せなのだというふうに思える様な、地域や周りの大人たちの雰囲気大事なのです。幸せというのは、親を働きやすくする環境づくりであるという単純な考えで今の世の中は回っていますが、子どものニーズに応えない社会であってはいけない。川西は「幸せ」をキーワードにしていますが、苦勞しながら子どもを育て、子どもが宝物に思える様な、そしてそこに幸せを見いだせる様な家庭教育をして欲しいと思います。だから、0歳児保育は、本当に大事なのだろうかと思うところです。もう1つ市の取り組みの中で、二分の一成入式というすごく良い取り組みが、おそらく全小学校でやっているはずですが、子どもが10歳になり、ここまで成長したのだという実感を親も感動できる訳です。親がしっかり愛情を込めて子どもを育てた家庭では、すごくいい発表会だったねということになるのですが、保護者が保護者でないような家庭で育てられた子どもにとっては、これは苦痛で仕方が無い時間になる。だぶん、どちらの学校でもそういう子どもに対して配慮をされていると思いますが、私が今、関わっている児童虐待に関係する子どもたちなども、配慮をしていかなければならないのが、現実の問題です。学校と家庭は連携しなければならない。そういうところまで家庭が崩壊している所もあるということを踏まえないといけないのではないかと思います。</p> <p>私の経験を踏まえて教育がいかに大切なのかをお話させていただきます。私は現役の時に、社員教育を担当する部門に携わりました。正社員をはじめ、派遣社員、臨時社員、パート社員、アルバイト、もちろん新入社員もですが、その人たちを全員教育していかなければ</p>
------------	--

審 議 経 過

NO. 8

	<p>ならない。教育をするのは大変な労力がいるりますが、考え方も大切です。この私があらぬ方向へ社員を導こうとしたら、できないことはない訳ですから、そんな恐ろしさを感じたのが事実です。教育をしっかりとすることによって、会社を支え、会社のイメージを作る。まさに会社を作るということです。そうすると、例えば、国は誰がつくるのかといったらまさに人間です。つまり教育です。これをしっかりとしないと、大変な事になる。川西市でいうと支えるのは誰か。それはまさに人間で、教育をしていくことで、川西のイメージをすばらしくしていく。教育があらぬ方向へいくと、それは大変な事になると思います。そういう意味から川西を支えていく教育の芯になって貰える方は教育長だと思います。川西を活かすも殺すも教育ではないかということで川西市が素晴らしい事を期待いたしまして、最後の話にさせて頂きたいと思います。</p>
B委員	<p>今年、私は兵庫県社会教育研究大会で発表させて頂く機会を頂きました。その中で副題として、「公民館講座の出会いからの発展」という事で、公民館講座からミュージカルの川西のきんたろうに至るまでのことを発表させて頂いた。私が社会教育委員に推薦されたのは、そういう経験を活かしてほしいということだと思い、社会教育委員をさせて頂いている間、魅力ある公民館講座、地域の中心の公民館とか、公民館講座の企画について実行委員会を作って提案していくそのような形になればということで意見を述べさせていただきました。私自身は公民館や郷土館など7カ所で童謡を歌う会を実施させて頂き、そこには、95歳の女性の方が来られるなど、やっぴいて、生涯学習はすごく大切だということを実感しています。公民館講座としてではなく、登録グループを作って毎月活動しているのですが、そんな中で公民館講座も魅力あるものがあれば、また社会教育の中の生涯学習に貢献できるではないかと思います。</p>
議長	<p>私は、50年以上にわたって川西の方に関わらせて頂いております。川西は何が売りかと考えた時に「人」だと考えます。学校教育や社会教育で人を育てることこそが財産ではないかという様な思いを持っています。また、時の流れとともに保護者や家庭が本当に変わってきているということをつくづく感じています。小学校に入るまでの子どもたちの保育や家庭の問題が、10年前と違って増えてきている。家庭の実態が厳しい状況になってきているのだなと思います。今後、行政が計画を具体的に進めていくなかで市民の考えを反映させ、市民の視点から進めていかなければならないということをおもいつとも、中央公民館の問題でも利用者の視点から話し合うことが大事であると思いながら、このテーマをまとめさせて頂きました。それでは、これらテーマに対する討議報告につきましては、議長、副議長の方でまとめさせて頂き、今日ご指摘があった部分を精査したうえ10名の委員名で教育委員会に提出をしていくという事で、ご了解頂けたらと思います。よろしいですか。</p> <p style="margin-left: 40px;">委員、了解</p>
議長	<p>それでは、この2年間、委員としてしっかりできたのかどうか思っていますが、終わりに当たり事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>平成28年度社会教育関係団体に対する補助金に係る説明をいたします。平成28年度予算については、現在開会中の市議会において、今後、審議されますが、PTA連合会など</p>

審 議 経 過

NO.9

	<p>の4団体への補助金につきましては、本年度と同額の補助を予定しております。個々の補助金額を申し上げますと、まず、川西市PTA連合会に28万3千円。川西市立幼稚園PTA連絡協議会に4万5千円。川西ユネスコ協会に9万円。川西市婦人会に9万円であります。また、学校支援地域本部事業補助金については78万円であり、このうち、市からの補助金は26万円で、国・県からの補助金が52万円であります。</p>
議長	<p>説明は終わりました。それでは、この2年間、委員の皆さんには会の円滑な運営にご協力いただきありがとうございました。これをもちまして、第3回の全体会を終わらせて頂きます。</p>
事務局	<p>最後に、本日の第3回全体会の会議録についてですが、本来ですと次回の会議で委員の皆様にご承認頂くところですが、この3月末で委員の皆さんの任期が終わりますので、議長、副議長にご一任頂くということよろしいでしょうか。</p>
	<p>委員、了解</p>
議長	<p>では、そういうことでさせていただきます。これで終了します</p>